

高退協ニュース

No. 178
2012年
9月4日

発行
高知高退協
事務局

〒780-0850

高知県高等学校
高知市丸の内2丁目1番10
高知城ホール高教組気付
連絡先 Tel 088-822-6822
郵便振替口座〇一六五〇二二一八九三

夏季学習会

遊んで笑って (中川) (味元)

井垣 政利

いやー、恐れいりました。
第一講座の中川仁志さんの「竹とんぼ」の話。現役時代から30数年作り続け、退職後工房「ふたり」をつくり、いろいろなどところで講演を続けているという。

まず、道具のナイフ。微妙な「ソリ」をつくり出すためには、「研ぎ」の技術が重要だという。中川さんのお父さんは鍛冶屋で子供の頃からその仕事ぶりを見て「研ぎ」の技術を身につけた。竹とんぼ作りには、日本の伝統技術が基礎にある。材料の竹。これもどんな竹でも良いというところではない。「つちの日(土犯)」という言葉、ご存知だろうか。旧暦で「大つち」



笑い方を指導する味元さん

「小つち」の日から一週間がそれにあたるという。この時期に切られた竹は、虫が入ったり腐りやすかったりすると

いう。竹とんぼに使用する竹は、この期間に切るのをさける。天文観察に基づく先人の知恵であるという。それだけでは足りない。空気抵抗、揚力な

うぐいす笛の実演をする中川さん



「笑いヨガ」。笑いが健康に良いとよく言われる。心

ど航空学の知識がいて、たかが竹とんぼといふことほどさように奥が深いのである。目からウロコの一時間であった。第二講座は、「笑いヨガ」。笑いが健康に良いとよく言われる。心

新加入
坂本昌士郎 さん
平野 佳代 さん
よろしくお願ひします。

からの笑いが良いのは言うまでもないが、つくり笑いやあいそ笑いでも良いという。そのため筋肉や、体の動かし方、呼吸方法などの実践。お腹のよじれるお話でした。

体重が増えた夏

研修のほとんどが 教員免許更新講習

高教組委員長 米満 敏孝

今年の夏は、生徒引率と研修で計13日間取られ、リフレッシュする時間がなかった。研修のほとんどが教員免許更新講習。講習の中にはこれからの教育実践に活かそうな講義や興味深いものもあったが、ひどいものもあった。とりわけ必須の「教育の最新事情」(2日間で8講義)の「学校における危機管理の課題」では、教員なら誰もが知っている内容で、具体的事例の話もなく、しかも、危機管理には風通しのよい教職員関係と情報の共有が大事だと強調。講師は、給与の昇給制度とリンクした教員評価制度を導入

第26回日本高齢者大会にぜひ参加しましょう

日時 10月10・11日(水・木)
会場 高松市
アルファあなぶきホール
サンポートホール高松
参加費 2500円(1日)詳しくは、
高退協ニュース7月号に同封
参加申込先 小澤 090-7148-7625



哀悼
長塚 乾介さん 5月9日逝去
笹岡 貢典さん 6月3日逝去
謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

平和美術展

年に一度は平和をきえる

森 哲実

今年も平和美術展が終わった。高知でもこの美術展を始めて29年目になる。

毎年7月からこの時期はピースウェイブの行事が目白押しで年に一度あらためて戦争や平和のことを考える機会となっている。高退協の皆さんはよくご存じと思うが、三十四年前故梅原憲作さんと西森茂夫さんを中心に企画された高知空襲展が今では十三の行事として様々な分野で展開されるようになった。

今年の平和美術展は「原発はいらない」をテーマにして特別展示をした。従来のテーマ制作とともに全国の脱原発を願う人々が制作したポスターを「みやぎアクション」というネット上で脱原発を呼びかけている団体から100枚セットで借り受け五十三点選んで展示した。また、原発の隠された報道や資料を写真などで展示し原発反対署名も実施した。出品者六十二人出品総数九十九点、毎年四百人前後の人が見に来てくれる。マスコミも取り上げてくれる。忘れかけている平和への意識がこういう地味ながら続けられる行事を通して取り戻されるのである。



平和美術展の展示会場

戦後六七年が経過し日本人の平和意識はどう変わったのだろうか。まさかこの

時代に戦争をするはずがない、という安心感が支配し改憲や自衛隊の問題を肯定的にとらえているのではないか。雇用が破壊され「もの言えぬ社会」が進行し、労働運動が低下して民主主義の根腐れをおこし「戦争を可能にする体制」は簡単にできあがってしまう。今全国で脱原発のための行動を起こしている人々は、いのちを脅かす原発に危機感を

抱きかつての学生運動をし、ぐ大きなうねりを起こしている。既成政党や労組の影響をうけないまさに市民運動としての新しい運動形体がうまれている。そこに希望の光が見える。

私たちは政治の混乱の中で平和をどう構築すべきか、今年もささやかながら続ける「平和美術展」で市民とともに考えるのである。

第58回高知県母親大会から

「お母さん会」の活躍

下田俊子

7月1日、太平洋学園を会場に今年の高知県母親大会が開かれました。私は会場入口の看板描きと第6分科会の記録の係りを手伝い参加しました。初めて県母親大会に参加した頃は、丸の内高校が会場で、昼休み、ずらつと並んだ本屋に感動したことでした。幡多の方では「お母さんと女先生の会」という名称もついていました。女の集まりだと、ただ言いたいだけ言ってましまりが無い、という感がありました。長野の日本母親大会に参加した時、会の進行や、

多勢の意見を会得する知性に感心し、ずっと母親運動には参加協力してきました。

その日午前中の第6分科会では、今問題になっている「社会保障と税の一体改革」について30人程が集まり話し合いました。参加者からは「母の3万円の年金ではデイサービスも充分うけられない。母を怒りたくなりケンカになる。」という訴えや、消費税が倍になると営業できないなどの意見がでました。助言者の方が「消費税が8%に上げられるまでに2年ある。その間には選挙が必ずある。選挙で民意を反映させよう。」とまとめられました。

午後全体の会ではオープニングに、サニーマートでおなじみの「かえりみち」を歌うスーパージョーの元気なステージを見て、チェルノブイリやフクシマの廃墟を描きつづける画家、中西繁さんの講演をききました。昨年カルポートの個展で実物の絵を前にお話した時はもっと熱いお話ができたように思い少し残念でした。スライドでの絵の紹介でしたし、200人余りを前に少し緊張気味にもみうけられませんでした。後日、彼の津波被害のガレキの絵がゼネコン関連会社に買い取られたという話をききました。

午前中の分科会では高知城の戦跡めぐりや、けしごむハシコづくりなどもあり、行ってみたかったなあと思えました。

「略」は、まぎれもないヒポクラテス直系の、しかも二千二百年の医業の蓄積を示すものです。そのごく一部を紹介します。患者を貴賤貧富でみてはならない。貧しい患者が治って両目から流す喜びの涙は一握りの黄金よりも尊い。流行のついで珍しい治療法を用い、評判になりたいと思う医者は大いに恥ずかしい。粗雑な診察を何回も重ねるよりも、一回一回の診察を細心の注意をこめてすべきである。と、いつ、尊大にかまえて度々の診察をことわるのは、もっとも憎むべき態度である。

飲水思源

不治の病であっても、患者の苦しみを少なくし、片時でも生命を長らえさせることが医者職務である。治せないとわかっていても、心慰めるのも医が仁術といえるものである。死の近い患者にそのことをさとられぬように、言葉、動作に注意が必要。患者に費用をかけさせてはならない。命をつなぎとめる資であるものを奪うことが、どうして医者に許されようか。患者が医者を信頼し、心を開いて何でも言ってくれるような人になれ、そのためには、医学の勉強だけでなく、俗情に通じるよう努めよ。

「医戒之略」は、全体で十二章、イタリア人フーフェラント『医学要覧』のオランダ語訳本から重訳し、その中からの抜粋です。

土佐のヒポクラテスのことなど

横田 慧

二十余年前、『南路志』を依光貫之さんのお勧めで買い求めたことが、私の心をどんなに豊かにしてくれたことでしょうか。

そのなかの一つに、医師中澤道寿・号潜軒(1621-1676)の話があります。かれの父も道寿、弟も道寿です。潜軒は小学、四書、近思録などを深く学び、いふなれば、医学だけでなく、しっかりと哲学を身につけていました。潜軒は、心を平静に保ち、怒りをもたないよう努め、患者の貧富を問わない仁医でした。土佐に別れをつけ、京都で父の医業を嗣いでからも、医は仁術司命の職との心得を堅持しました。潜軒は、治る病気を医者が救わなければ不仁であると断じています。貧しい患者には自分の着衣を売って薬に替え、全治させたことも書かれています。

古代ギリシアの医聖ヒポクラテスからくだること二千余年、人命尊重の精神は古今東西を問わないものと、大いに感動しました。その中澤道寿から、さらに二百年のち、大坂の緒方洪庵の適適齋塾のモットーとして掲げられた「医戒之

「プーチンと橋下」

6月21日付け高新高社会に、旧ソ連時代の権力を風刺する

「プーチン大統領が行う『改正デモ規制法は、違反者への罰金最高額を現行の千ルーブル（約2千4百円）から30万ルーブル（約七十二万円）に引き上げる』。実に三百倍だ。強制労働という罰則もあるが、大統領は法案の署名前、自信たつぷりに『法案を作る際、欧州各国の類似の法律を調べた。この法律が特に厳しいと言ふことはない』『しかし、懸念が消える気配はない』」とし、続けて「ジョークで読む国際政治」（新潮新書）から、「ロシアの受刑者の『ゴルバチョフとエリツインの時は無事だったが、プーチンになってまたぶち込まれた』。あなたは暗黒街の顔役なのかと聞かれると、『アネクドートをつくっただけだ。顔役はみな政権に入っている』。そして最後に、「この小話、最近の規制ぶりを見るとどうにも笑えない」と、記事は結んでいる。

岡林 登志郎
肉った」と、記事はまとめている。

「憲法が保障する表現の自由を抵触する可能性もあり、論議をよびそうだ」とし、坂口正二郎一橋大学教授（憲法）の談話「行き過ぎた問題」を載せ、「人事院規則でも何がそうした行為に当たるのかそれほど明確にはなっていない。懲戒免職の対象にする内容を明確にしなければ、萎縮効果が働いて、公務員が本来憲法で保障されている表現行為まで怖くて控えてしまうことが起き得る」と談話ではまとめている。

皆様には音楽鑑賞をすすめます。いままで、特に興味がなかった方にお勧めです。この歳になりますと、ふと音楽の無い人生もいかなものかと考えたりしませんか。そうです、今こそ音楽を聴いてみましょう。やはり、一番は生演奏を鑑賞することです。が、なにせ費用が掛かります。また地方に暮らしている私たちがとって、コンサートに駆けつけるのがなかなかたいへんです。さらにクラシックコンサートなどはどこで拍手してよいかかわからず、間違っ手を叩くと恥ずかしい思いをします。それではテレビやラ

趣味鑑賞 CDで音楽鑑賞

井上 圭介



まさに橋下市長（知事時代から）の発言や動きは、「どうにも笑えない」。

その記事が掲載された翌日、6月22日の朝刊を開けてビックリ。「大阪市『政治活動職員は懲戒免職』橋下市長条例制定へ」という記事だ。市職員が政治活動をした場合、原則的に懲戒免職にすることを盛り込んだ「政治活動制限条例」を、7月市議会に提出し、8月施行を目指すという。条例案は職員の政治活動の範囲を①政党と政治団体の機関紙などの発行や配付②デモ行進など示威行動の企画③集会で拡声器を使い政治的主張をすること―などを規定し、政治的な目的を含む文書や映像などを多数の人に見せたり、聞かせたりする行為も含めた、と記事にはある。また、「19日に閣議決定された政府見解『職員の政治活動違反は、懲戒処分地方公務員の地位から排除すれば足りる』として従いしつかり懲戒免職にしていく」と、橋下市長は、「皮

ジョ放送で、といつても自分の好みの音楽が放送されることはまれです。では、どうすればCDを聴きましょう。あれだつて費用が掛かるじやないかと思われでしようが、買うからいけないんです。借りるのですよ。レンタルショップで借りてもいいけど（最近シニア割引があります）無料で貸してくれるところで借りましょう。図書館です。結構な枚数のライブラリーがありますよ。大きい声では言えませんがコピーもできます。友人同士で貸し借りをすればさらに都合ですよね。昔のLPレコードは傷つきやすく貸し借りは、はばかられましたが今のCDはその心配はほとんどありません。再生装置がない、買うと金がかかる。ごもつとも。子どもさんが昔買って入れたミニコンポが押入れで寝てませんか。それを活用しましよ。CD再生は可能で

すが、あれはお勧めしません。やはり、CDを聴くぞ、と決心されたなら一挙にオーディオ趣味にも手を染めましょう。ミニコンポでも立派にオーディオ製品です。スピーカーを1mぐらい離しましょう。ぐつと立体音が感じられるはずです。（本来ステレオはスピーカーの間に音が浮かびます）しばらく楽しんでからグレードアップです。少々出費ですがアンプを買ってしましよう。これは新品がいいでしょう。エンタリーモデルを買うのがコツです。2万円代がいいでしょう。シンブルな回路で音がいいです。間違っても最低は不安だからと1.2クラスアップは買わないようにしてください。おまけ的な機能がついているだけで音は却ってよくない場合があります。一聴してわかるほどの差は桁が違わないとわかりません。次は、物置にしまつてあつた昔のでかいスピーカーを引っ張り出しましよ。ここまでくれば、立派なオーディオオマニア、次にエンタリーモデルのCDプレイヤーに手を出しましよ。え、いつの間にか金使つてるではないか、ですつて？ここから先が怖いです。（楽しいんです）やがてあなたは本屋でオーディオ誌を手にとつておられるでしょう。坂本九やザ・ピーナツが歌うまいんだなあと感激したりします。はやくこちらへおいでなさい。おいで、おいで、の手が見えているでしょ。

温泉昼食会.....
 期日 2012年10月11日(木)
 行き先 天然温泉土佐路 はるのの湯
 費用 3,500円

親睦旅行.....
 期日 2012年11月14日(水)
 ~11月15日(木)
 行き先 京都・岡山をめぐる旅
 田所金久先生ご提案の山本宣治・朝日茂の
 墓参と三十三間堂・竜安寺・金閣寺など観光
 費用 35,000円
 温泉昼食会、親睦旅行いずれも詳しい案内を
 同封しています。

う。CD再生は可能で

富士山登山

①

山口幸男

昨年より遅く梅雨明け宣言があつたが、その後もすつきりしない天候の続くなか、7月22日に6名で出発した。高知から各自動車道を経由して中央自動車道に入ると、トンネルを抜けることに降雨・霧・晴れ間と天候は目まぐるしく変わる。夕刻6時、河口湖駅前前のビジネスホテルに着く。所要時間12時間。早速近くのレストランで明日の天候回復を祈つて乾杯。

7月23日 6時30分に宿舎をで、河口湖駅発一番の富士山義山バスに乗車中外国人客も多いが運転手さんは英語でときばきと応対している。富士スバルラインを走るがアカマツなどの樹林の緑が美しい。霧の発生もあるが、青空も時々見え天気は回復傾向。8時40分富士五合目吉田口駅に着く。

標高2305 m。多勢の登山客でごつた返している。霧も晴れ天気は上々、8時40分登山口出発。最初は富士外周を下界の景色を眺めながらゆっくり進む。このあたりは森林の上限付近で林内を進んだり森林がとぎれて砂礫地に出たりする。9時40分6合目



富士山 六合目～七合目付近

山の会の富士山登山2回に分けて掲載します。

着こから赤茶けた火山性の砂

礫地を延々と歩く。イタドリ・タデ・ハタザオなどがポツポツ見られる。11時35分7合目着。ここから8合目まで登山道は急勾配になる。山小屋が林立し、下から眺めるとまるで天空の城のように上空に突き出している。7合目から8合目の区間は標高差約600mで溶岩の岩肌が露出し登高は厳しくなった。山小屋を一つ過ぎる毎に休憩の登山が続く。酸素が少なくなったせいもあり山小屋の休憩所では中高生の団体客や外国人の家族連れなど多勢の登山客が休憩している。国際的である。14時40分本8合目モエ館に着く。標高3374 m。早速部屋に案内される。登山客の多いこの時期に1ブロック取りきりではあるが、四畳半程度の広さに6名分の

寝袋が30×40cm間隔で並べてある。かなり窮屈である。夕食までの間ビールで乾杯。小屋の外に出てみると山の斜面には雪渓が数本縦に走り、周囲は雲海が広がる。気温はかなり低い。ヤッケの上にダウンを羽織る。夕食を16時半頃に摂る。インスタントに近いカレーライスのみ。外に出て富士山の影が雲海に写る影富士を撮影。19時頃には早々に寝袋にはいる。狭くて窮屈であるが疲れからか2×3時間は眠る。23時頃目が覚めるともう駄目である。小屋は一晩中騒がしい。夜中に登ってき2×3時間仮眠をとりすぐに出発するグループもある。(次号へ続く)

俳句

六月十六日 土曜

須崎市 新荘 須崎 道の駅

合田 青幹

人呼んで我雨男五月雨るる

指呼の間に鮎の川あり道の駅

小笠原さちを

満々と石壠隠す梅雨出水

青葙や瀬の泳ぎし川はこ

吉本 伸秋

瀬の川志士脱藩の嶺はるか

そのかみの津野氏の在や

七月二十一日 土曜 高知城

吉本 伸秋

鶉の花桜馬場にて古き町

古簾路地に屈託なき笑ひ

小笠原さちを

多羅葉の一枚摘みて夏だより

希望てふ裸像まぶしき雲の峰

短歌

上山春平先生ご逝去

神原忠彦

輛の浦は架橋せずとに安堵せり賛否両論ありはすれども

「黒い雨」と重なると述ぶ、

井伏鱒二「輛の津茶道記」解説で知る

(「講談社文芸文庫」加藤典洋)

法華寺へ妻を誘ひしは上山春平「埋もれし巨像」を読みとなりけり

(八月六日、高知新聞夕刊で計報)

暮らし

山本晶子

生ごみを土に還せばブルー・ベリーの実は黒々と大きくなりぬ

粉にせし雑魚と昆布のだし入りの味噌汁うまし孫はおかわり

廃油にて作りしせつけん換気扇の汚れをきれいに溶かしてくれぬ

夏すぎて

叶岡淑子

草引きも雑巾がけもままならずわが膝に知る老い真つ盛り

年金改悪、増税、原発、TPP黙っておれぬ 老いたればなお

ロンドン五輪、よさこい祭りの夏すぎてシユプレヒコールの列にいる秋

川柳

あかつきの抄 ③

小澤 幸泉

鍵穴の向こうに父が 生きている

冷え切った私をつつむ 熱い胸

舞台から落ちる自分に 気づかない

子の育ちカメラ目線に 納まらず

四十年まさかの学友が 側に居る

百三十一歳まで つぐない

横田 慧

ワイフが、脊椎管狭窄症で大手術を受けました。切り口は十センチを超します。手術時間五時間、手術費白四十余万円でした。その手術一ヶ月あまり前から、家事はいつか私の仕事となりました。私のノート取りも、これまでの一日一万字前後から二、三千字にダウンしました。それで、はたと気付きました。退職のころからのノート約三千万字のうち、八割の二千四百万字は、なんのことはない、彼女のおかげでできたということなのです。

思えば、結婚以来五十四年間このような一方的「献身」をしてもらってきました。もうこれ以上そんなことは続けられない。「よし！」と

心を決めて炊事、洗濯、掃除なんでもござれと、いまや楽しくやっています。これから五十四年といえ、二人は百三十一歳にもなります。とても、それほど長生きはできないでしょう。スーパリーの買物一つとつても、かごいっぱい荷の重いこと、若いときの私のように身体を鍛えてもいない、あの小柄な彼女が、長年にわたって黙々と運んだことが脊椎を極度に傷めたことは確かです。このように毎日、生活の随所で思いしらされることばかりです。ところが、現役の頃の彼女には、このうえに、教職の仕事、育児などが重なっていたのです。

側に居る